

## 市民のつどい2016・ふれ愛講座「ちゃんへん氏によるパフォーマンス・講演・ラップ」(講演概要)

新宮市では平成28年11月27日、蓬莱体育館において「市民のつどい2016・ふれ愛講座」を開催しました。講師は、世界レベルのパフォーマーのちゃんへんさん。『あきらめない心』をテーマに、在日三世に生まれその壮絶な生い立ちを赤裸々に語ったほか、中学2年のときに始めたジャグリングで世界一になったことなど、パフォーマンスと講演、ラップで来場された約300人の皆さんに披露しました。

また、アンケートも実施し、約52%の方からご協力をいただきました。その中では、「胸にひびく話でした」「とても感動しました」「すばらしいパフォーマンスと貴重な人生経験、感動致しました」などの感想が寄せられています。詳しくは、一覧表のアンケート欄をクリックしていただくと、アンケート集計結果のPDFファイルがご覧いただけます。



ジャグリングを披露するちゃんへんさん

最初に、ボールやクラブなどいろんなジャグリングのパフォーマンスを披露し、世界大会で金賞となったディアボロ(中国こま)の世界で一番難しいといわれる高度な技も舞台という限られたスペースで実演。会場いっばいに詰めかけた子どもからお年寄りまでの市民らから驚きの声や大きな拍手が響いた。



続いて、「あきらめない心」と題した講演に移り、自分はコリアンだけが住む京都のウトロ地区で生まれ育った在日韓国朝鮮人と話し、母親の方針で日本の小学校に入学、学校では日本語、家では基本的に朝鮮語。当時は小さかったから意味がよく分からなかったが、3年のとき「いじめ」が始まった。4年でいじめと暴力が毎日続くと「自殺願望」になった。当時の校長がいじめをする上級生に「朝鮮人をいじめて楽しいか」と叱った。母親が来て、この校長に「いじめが無くなるとおもうか」と言い、さらに「いじめより楽しい事を子どもたちに教えよ」とも言い、帰り際に「すてきな夢を持っている子はいじめなんてしない」とも語った。



この後、中学2年でジャグリングに出会い「この世界で1番になろう」と始めた。ジャグリングを学ぶため渡米を決めたが、国籍を選ぶことで家族や親類を巻き込む問題となったものの、祖父が「自分の夢を支援してくれた」と振り返った。中学3年ではアメリカのパフォーマンスコンテストでアジア人初の金メダルを受賞。2年後に17歳でパフォーマンスの世界カップに出場し、観客の投票で1位を獲得した。

最後に、ラップを披露。「根無し草」と、すでに他界した祖父を偲んで「ゴーストブルース」の2曲を歌い、心に響くメッセージを送った。